７月２３日（土）１限目「２０世紀音楽と映像表現」

担当教員：メディア学部　メディア情報学科

島野　義孝　准教授

音楽と映像の講義ということで、開始前の教室には「ラプソディ・イン・ブルー」が流れていました。

講義冒頭に紹介されたサイレント映画は、セリフ等のない無音の映像が生演奏によって表現され、上映時には楽譜が配布されることもあったそうです。「２０世紀的な表現」として、今までは使用されなかった騒音やサイレン等を用いた演奏や、画家によって作成された抽象的かつ前衛的な映像が挙げられました。

ほかにも多くの映像資料から多種多様な作品を抜粋し、解説していただきました。なかにはあまり目にすることのない映像作品もあり、現代とは異なる表現方法はどれも興味深いものばかりだったのではないでしょうか。